

[035]九州人類学会報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2341042>

出版情報 : 九州人類学会報. 35, 2008-07-12. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

編集後記

1973年10月に創刊号を刊行して35年目の今日、記念すべき第35号にふさわしい力作を収録しての『九州人類学会報』をお届けできることは喜びに耐えません。この35年間に例会のあり方は様々に変化してきたが、一貫して年に一回のペースを守って会報を発行してきたことは、このような地方の研究会としては稀有のことではないかと思えます。歴代の会長初め、事務局や編集に当たられた運営委員の皆様の努力の賜物と厚く御礼申し上げます。

山室氏の論文『それでもそこで暮らし続けるためには』は、原発建設をめぐる大きく揺れる住民たちが、運動への関与を躊躇しながらも生活し続けていく。その中から積極的に関与していくある生活技法が生じてくると論じたもので、論旨明快な論文である。萩原氏の『語りを開く：水俣病事件における〈証言〉生成の現場から』は水俣病という出来事を証言する、ことばにする、語る行為の中から「語りを聞く耳をもつ」「語られない語りを開く」という重い問いを投げかけてくれる。永吉氏の研究ノート『市民に寄り添う活動家兼研究者』は、10年前に閉山した三井三池炭鉱の保存、活用に native 研究者として、さらに活動を実践する当事者として関わってきた報告である。

上記の3本はいずれも現代日本の大きな社会問題を各人各様に異なるスタンスで扱いながら、人々の生活を根底に「語り」を切り口にしている点で共通項をもつものである。

松永氏の『二項対立のあらかじめ作られた図式』は、34号に続く掲載だが前号までの経緯もあり、今回は原著をそのまま掲載する〈特別寄稿〉とした。著者のライフワークである「象徴的二元論」を論じたもので、喜寿を迎える今日でも旺盛な意欲で研究を続けておられる先生に心からの敬意を表したい。

会員諸兄姉にはこれらの論文及び研究ノートを是非手にとってご一読願いたい。「九州人類学研究会」が目指す〈science of man〉の研究や実践に必ずや大いなる示唆を得られるものと確信します。

九州人類学研究会会長
片多 順

九州人類学会報 第35号

発行年月日 平成20年7月12日
発行者 片多 順 (研究会会長)
編集委員会 白川 琢磨 (編集委員長)
伊藤泰信・片山隆裕・關一敏・長谷千代子
発行所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学文学部比較宗教学研究室内
日本文化人類学会九州・沖縄地区研究懇談会
九州人類学研究会
電話:092-642-2424
[Email:religion@lit.kyushu-u.ac.jp](mailto:religion@lit.kyushu-u.ac.jp)
印刷所 (有)一正堂
〒812-0053 福岡市東区箱崎6-14-17
電話 092-651-3771